✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

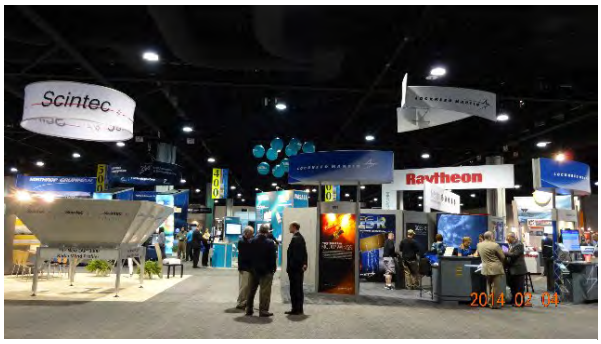
✧　ＡＭＳ94(アメリカ気象学会)に参加して

米国気象学会定期大会（AMS94）が 2 月 3 日～7 日の日程で開催され、日本の気象測器会社などの方々とブース展示等により参加する機会を得たので、大会の概要を速報します。

今年の学会は、ジョージア州のアトランタで開催されました。アトランタは 1996 年のオリンピックが開催された都市であるとともに、コカコーラの本社や CNN の本社があることでも有名です。

さて、AMS には気象情報の開発や利活用に関する研究発表、ポスター展示、世界各国の団体・企業による気象関連機器（気象観測機器、高層気象、レーダー、ソーダー等）や気象情報商品（衛星情報、リモートセンシング等）、大学や出版業界からの展示等が行われていますが、今回も同様の展示が行われていました。また、大会初日には子供向けの気象フェアーも開催され、竜巻や大雨災害等の模型実験やテレビスタジオの模擬放送も行われ、好評を博していました。展示では、静止気象衛星や極軌道衛星に関連して、アメリカの大手企業であるボーイング社、ロッキード社、ノースウェスト社等がハード・ソフトの両面から大々的に展示を行い、NOAA、NASA などが画像処理や画像解析プロダクツの展示を行っていました。

気象測器メーカーの展示では、昨年同様に、オールインワンタイプの自動気象観測装置（AWS）が目立ち、いくつかのブースで聞いたところ、ターゲットは全米に 11,000 ヶ所ある空港及びその利用者、牧場経営者、エネルギー関連企業等とのことで、地上気象観測ではなく、簡易に実況監視ができる機材やシステムに焦点を当てているとことでした。また、雷検知器を開発・販売する会社のブースでは、全米に 400 箇所、その他の世界各地に 700 箇所の雷センサーを設置し、インターネット経由でリアルタイム収集するシステムを展示しており、雷の情報から積乱雲や大雨の移動・接近を予測するシステムを開発していました。



AMS94 会場の様子

参加者の傾向として、アジアからは中国や韓国からの研究者や企業人の参加数に比べ、日本人の研究者や企業の参加が少ないのが気にかかるところです。

なお、来年の AMS95 は、2015 年 1 月 4 日～8 日の日程で、アリゾナ州フェニックスで開催される予定です。

当センターで出展した日本企業ブース

気象フェアーでの大雨災害の模型

（振興部）